

平成23年3月18日

香川大学名誉教授・香川大学元学長の 岡市友利先生が、「Harmful Algal Bloom Trail Blazers」 に選ばれました！

このたび香川大学名誉教授の岡市友利先生が、「International Society for the Study of Harmful Algae(以下「ISSHA」、有害・有毒藻類に関する国際学会)」のHarmful Algal Bloom Trail Blazersに選ばれました。

これは、現在、デンマークに本部を置く国際学会「ISSHA」が、世界中の有害・有毒藻類に関する研究者の中から、その先駆的研究を行った優れた研究者に対して顕彰するものです。

岡市名誉教授(農学博士)は兵庫県神戸市のお生まれで、現在81歳。東京大学を卒業後、1964年に香川大学農学部に着任され、1983年から農学部長を、1991年からの6年間は、香川大学学長を務められました。農学部長時代は、連合大学院博士課程の創設に、さらに学長時代には香川大学国際交流基金の創設や工学部の創設などに尽力されました。

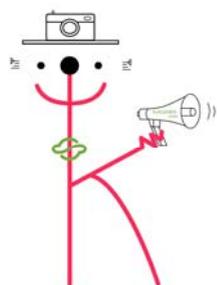
岡市先生は、瀬戸内海で赤潮による養殖ハマチのへい死被害が急速に拡大していた当時、瀬戸内海の水産海洋環境全般における幅広い研究を展開されました。具体的には、赤潮プランクトンの大量培養技術の確立とその生態的な特徴、さらには、赤潮の発生頻度と海域の富栄養化との関係などの研究に着手され、わが国の赤潮に関する科学的研究をリードされました。そして、瀬戸内海の赤潮研究の先駆者としてだけではなく、赤潮研究の成果を沿岸海域の環境保全に生かすことにも尽力されました。

1983年からはWESTPAC(西太平洋共同研究事業)の赤潮研究グループの班長をつとめられ、1987年には世界で初めての『国際赤潮シンポジウム※』を高松市で開催されるなど、文字通り世界の赤潮研究の第一人者として活躍してこられました。今回のHarmful Algal Bloom Trail Blazersへの選出は、以上のような研究成果や世界的な活動が評価されたものです。

香川大学に在任中から、赤潮研究を通じた地域貢献が自らの使命であるとして、他大学・研究機関等からの招聘を固辞され続けられました。この情熱は81歳のいまなお衰えを知らず、現在も香川県赤潮研究所顧問、香川県環境保健研究センター顧問等を務められ、昨年は瀬戸内国際芸術祭における瀬戸内国際シンポジウム2010実行委員会委員を務められるなど、精力的な活動を続けておられます。

※国際赤潮シンポジウム(International Symposium on Red Tides)

赤潮に関するシンポジウムとしては、世界で初めて高松で開催されたもので、世界90の国・地域から260名余の研究者が参加し、様々な発表・討議が行われ、世界中から注目が集まりました。このシンポジウムが発端となり、現在も2年に一度、世界各地で同様のシンポジウムが開催されています。



お問い合わせ先

- 香川大学瀬戸内圏研究センター副センター長 多田 邦尚
- TEL: 087-891-3148
- ※上記不在の場合 香川大学 学術室 研究協力グループ 井上
- TEL: 087-832-1316
- メール: tikyosenm@jim.ao.kagawa-u.ac.jp